

■ 今四半期決算の評価と今後の業績回復の見通しについて

Q1: 今四半期決算の評価と今後の業績回復のシナリオを教えてください。

A1: 第1四半期決算は緊急事態宣言の影響により国内旅客需要が低迷し厳しい結果となったが、第2四半期については、現時点での予約状況に基づく需要見通しでは、7月はコロナ前比40%程度まで回復、9月に向けコロナ前比50%強まで回復する見通しであり、昨年度の状態とは大きく異なる。9月以降、営業キャッシュフローの早期黒字化が期待できる状況だと認識している。

■ 貨物事業について

Q2: 国際貨物の需要が強い状況を踏まえた自社貨物便の運航状況を教えてください。

A2: 当社は貨物専用機を運航していないため、旅客機を使った貨物便を運航している。第1四半期には国際国内あわせて4,111便の貨物便を運航した。今後も収入最大化を図るべく、積極的に貨物便を運航していく。

■ LCCについて

Q3: 今後の中長期的な取り組みを教えてください。フルサービスキャリア（FSC）からLCCへの路線移管等は考えているのか。

A3: コロナ後は、観光やVFR需要は早期に回復し成長していく期待がある一方、ビジネス需要はコロナ前の水準には戻らない可能性があるため、需要動向の変化を捉え、路線毎の需要構成に適合するよう、FSC・LCCの活躍の場を考えていく。成田空港をハブとする国内・国際線LCCネットワークを他社に先行して体制を整え、拡充していく。FSCとLCCのマーケットはターゲットとする顧客層が全く異なるため、カニバリゼーションの懸念はない。

■ コストコントロールについて

Q4: 実質固定費の目標額5,000億円を今年度更に下げられる余地はあるのか？

A4: 売上が伸びないのであれば、コストマネジメントを更に徹底することは経営のミッションである。第1四半期では、実質固定費をそれなりに切り込むことが出来ており、今後もコストマネジメントを徹底していく。

以上